
被疑者

曽根悠

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

被疑者

【Nコード】

N4201F

【作者名】

曾根悠

【あらすじ】

犯人側のみ視点で描いた、本格サスペンスミステリー。

プロローグ（前書き）

感想など、受け付けてます

ブローグ

ブローグ

矢嶋久人がその計画を思いついたのは三月の初旬頃だった。

あの日は七時二十分、久人は前日と同じようにマンションの扉を閉め、鍵をかけた。朝早いので彼の予想通りエレベーター内には他に誰もいなかった。

久人は一階に降りた後、外の通りに出て大学へ向かい歩き出した。冷風が彼の露出した肌に当たったのを感じて、足を止めた。マフラーを巻きなおし再度足を運び始める。

不良の溜り場となっていた公園は避けて久人は脇道を通った。公園には滑り台、ブランコ、ジャングルジムが位置していた。ジャングルジムの上に仁王立ちしていた黒ずくめの不良に目をつけた。その不良は前にも何回か見かけたことがあって、久人は密かに黒ずくめの男にカラスという渾名をつけていた。

カラスの左手には水玉模様の水風船が握られていた。久人は水風船の行方が気になり、歩きながらもずっと男の手を凝視していたを覚えている。やがて風船を包んでいた五本の指は関節を伸ばし、水風船は投下された。

ジャングルジムの下では三人の不良達が一人の男子生徒を地面に押さえつけていた。久人はそのことに今気づき、落とされた水風船は生徒の頭に命中し弾けるのだろうと理解した。予想図通りに水風船は生徒に当たったのを覚えている。

そして、男子生徒の悲鳴と水風船が割れる音が同時に耳に入ってきた。目の前の出来事こそが虐めるという行為なのだろう、と久人は悟った。

その刹那、久人の脳内にその計画が浮かび上がったのだ。

計画に必要な道具はほとんど八ヶ月の間で用意した。だが一大学

生が集められる物などたかが知れている。

久人が始めて必須品のリストを書き出したとき、自分でもびつくりするような大きさを舌打ちした。到底集めることが不可能に近かったからだ。万一集まっても、この道具を使って上手く作戦成功を実現させることができるだろうか。

可能性は限りなく零に近かった。

現実主義者であり、樂觀主義者でない久人はこの計画の実現を完全に諦めかけていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4201f/>

被疑者

2011年11月15日04時45分発行